

「顕微鏡ステレオグラム(2)」

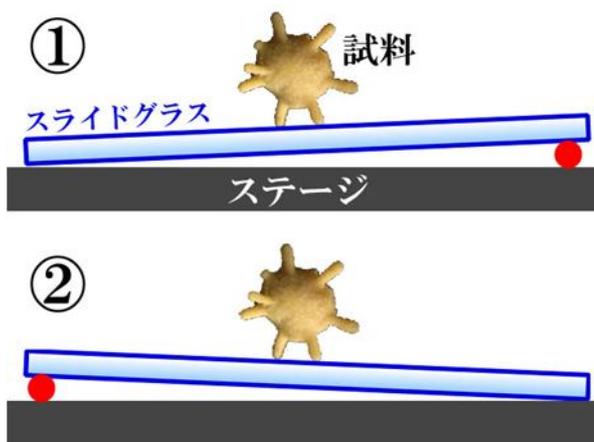
お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

デジカメを使った通常のスレオ撮影なら、観察対象が小さくても、1枚目と2枚目でずらす距離を工夫すれば、うまく立体視可能な写真になる。下の写真は、夜間に巣の中央にとまった小さなクモを、カメラをわずか5mmずらして撮影したものである。これでもステレオグラムになっていることがわかる。



┌─── 交差法 ──┐ ┌─── 平行法 ──┐

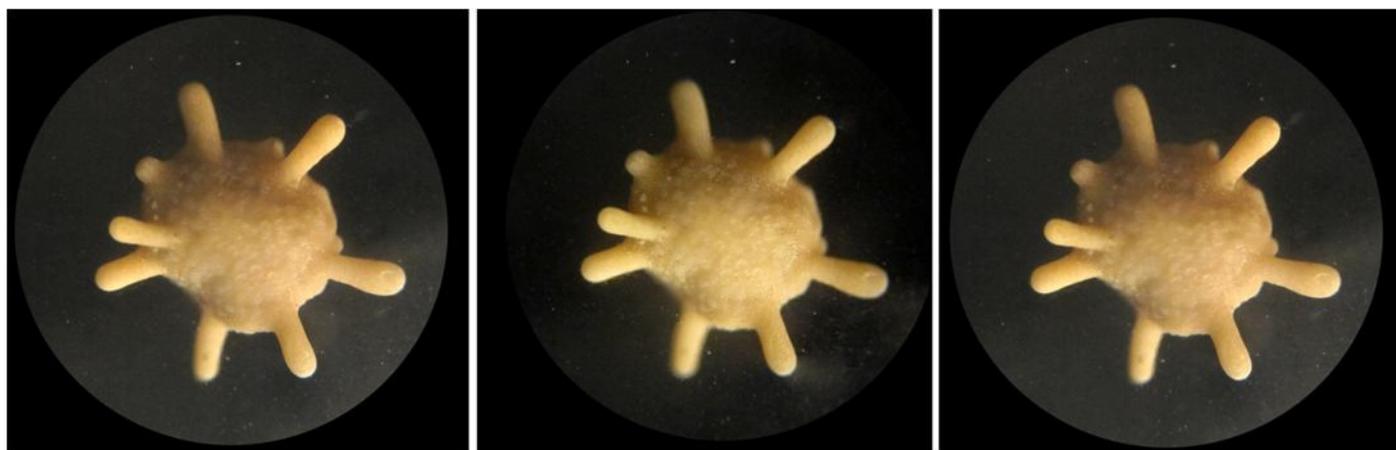
顕微鏡ステレオグラム模式図



作図；C.Tanaka

星砂のような大きさのものを、顕微鏡でステレオ撮影するのは、この方法では難しい。対物レンズ上でカメラは動かさないし、スライドガラスそのものを動かすのも、星砂の大きさだと、視野からはずれてしまう。私は左図のような方法を思いついた。

ステレオグラムは、対象物への視線をずらして撮影する。要は、「対象物を観る(撮影する)角度」を変えればいいわけだ。そこで、資料(星砂)を載せたスライドガラスの角度を、1枚目と2枚目の写真で変えて撮影してみた。この方法は成功で、単眼の光学顕微鏡でも、ステレオ撮影が可能ながわかった。デジカメでの接写撮影とはちがって、星砂表面の凹凸まで立体的に見える。私は、更に小さな対象(たとえば花粉や孢子)でも試してみたくなってきた。(つづく・・・と思う)



┌─── 交差法 ──┐ ┌─── 平行法 ──┐